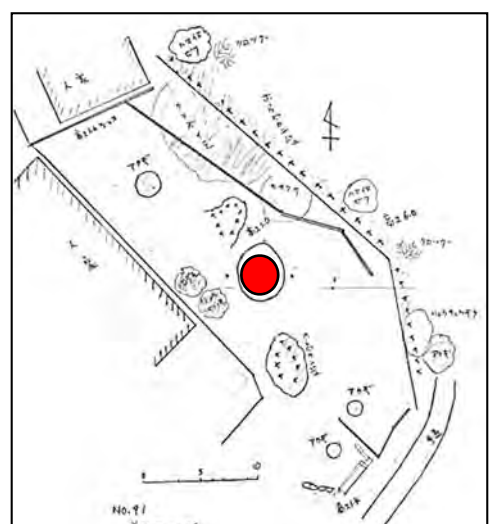


## 首里の大アカギ



認定番号 91

樹種名	アカギ	科名	トウダイグサ科	方言名	アハギ	学名	<i>Bischofia javanica Bl.</i>						
形状・寸法	樹高 18.5 m	胸高周囲 9.7 m	根本周囲 16 m	樹幹占有面積 398 m <sup>2</sup>									
	枝下高 6 m	枝張 東 9.5 m 西 13.2 m 南 10.6 m 北 11.8 m	最大樹冠幅 22.7 m										
通称	首里金城の大アカギ		樹齢	年(推定)		所有者	1 国 2 県 3 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明						
所在地	那覇市首里金城町3丁目					状況	1 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拜所 8 市街地 9 街路 10 その他 (樹林地)						気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 名木 7 その他 8 なし					(最寄りのア ダスター)		平均気温(°C)	16.6	16.8	19.0	22.2	24.9
	周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ( )					風向	N	N	N	SSE	SSW	SSW
土地傾斜		1 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:					地点:那覇	月	7月	8月	9月	10月	11月
	土壌	1 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ( )						2015年	平均気温(°C)	29.0	28.7	27.8	25.5
基岩・母材							潮風の影響	1 なし 2 ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)					
	地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他						日照条件	1 良い 2 普通 3 やや不良 4 不良				
土性		1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない					周辺樹木の 影響	1 なし 2 わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況))					
	根元及び周囲の植生	草本 1 密生 2 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 3 なし					周辺根元の 状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 3 固結している a 踏圧あり b 踏圧なし					
管理状況		1 柵 a 有 b 無 (有の場合の高さ 0.9 m、材質(鉄パイプ) 柵内面積 ( m <sup>2</sup> ) 設置年 2014年 2 支柱 a 有 b 無 (ワイヤー4本) 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類 ) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類 ) 6 解説板 a 有 b 無 7 避雷針 a 有 b 無 8 定期的な草刈・掃除 a 有 b 無 9 その他 地元自治会が定期的に清掃					周辺樹木と の関係	1 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている					
	過去の治療歴 と内容	・戦時中、既に根元には大きな空洞があった。戦後、南西側の開口部をセメントで閉じ、トラック2台分の土で穴を埋める。 ・2014年に枯れ枝を整理し、ワイヤー設置。											
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 鬼餅伝説 6 不明												
視認性	1 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由 )												
特記事項	1 動物生息 a 有 b 無 (有の場合動物の種類 ) 2 着生植物 a 有 b 無 (有の場合植物の種類 ホウビガンジュ、オオタニワタリ ) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット												

地上部の衰退度判定（認定番号91）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常 ○	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い ○	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし ○	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 0.73

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

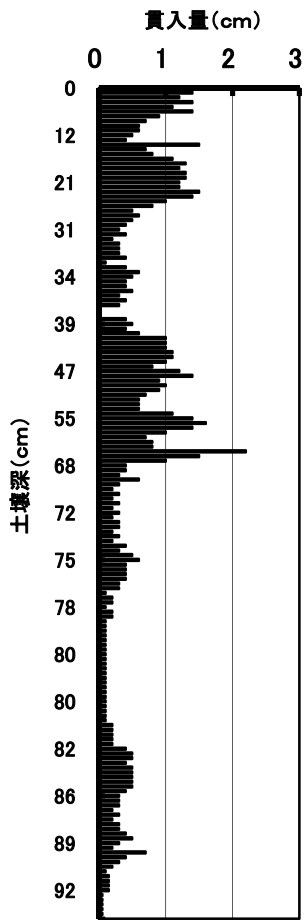
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係		○		
根返り	○			
幹折れ		○		
大枝折れ		○		
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大		○		
その他（ワイヤロープ）	○			

土壤調査結果 (認定番号 91)

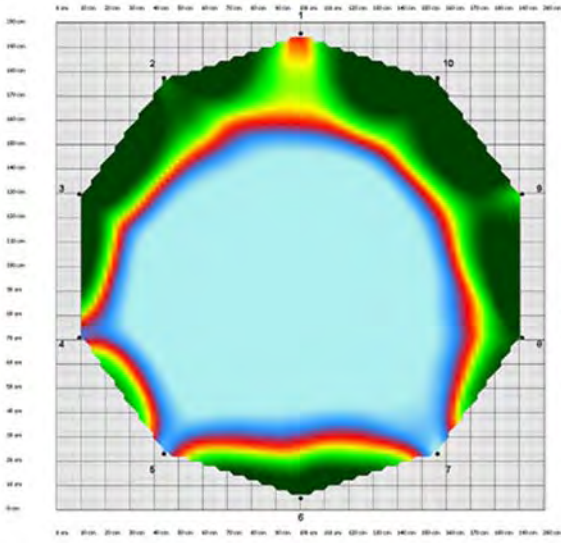
層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)	備考
A	7.5YR2/2	0-6	塊状・堅果状	シルト質壤土	8.1	2.1	下層に粘土が混入
B1	7.5YR5/4	6-10	—	埴土			
B2	7.5YR3/2	10-30	—	シルト質壤土			
B3	7.5YR4/3	30-		埴土(壤土)			

土壤貫入量結果

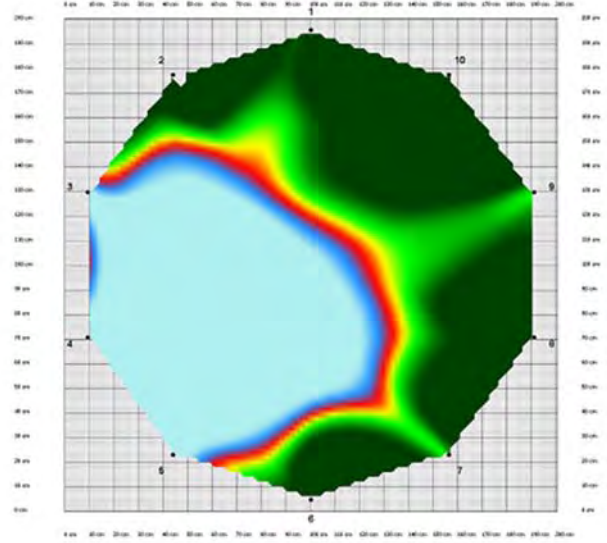


FACOP による内部診断結果

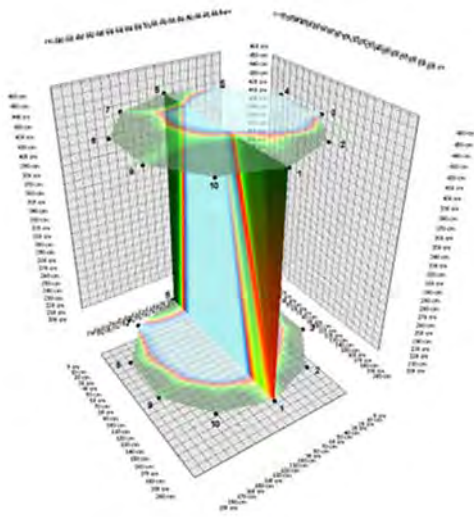
地上高:2m 腐朽率 67%



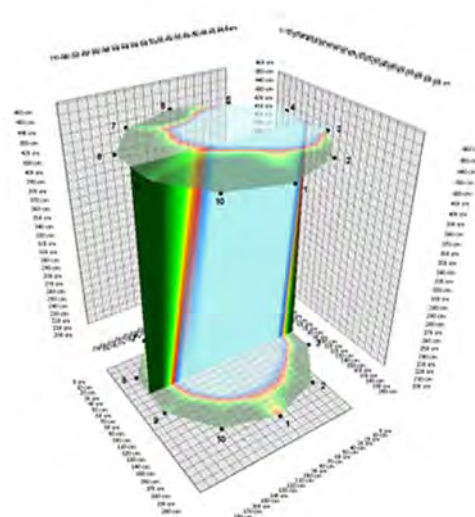
地上高:4m 腐朽率:47%



西側から見た想定縦断面



東側から見た想定縦断面



首里金城の大アカギ

部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌は珊瑚石灰岩を母材とする島尻マージで岩が露出する南～西側の土層は浅く 10cm 内外で基岩に達する。土壌構造はシルト質壤土、堅果状構造で物理性は良好である。</li> <li>・北側は土層 1m 以上。シルト質壤土で塊状構造。深さ 6～8cm に基層の風化物を含む土壌を挟み、30 cm 以深は埴壤土で粘質が高い。</li> <li>・pH:8.1。EC:2.1(dS/m)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表層は踏圧による固結が認められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立入禁止の強化を検討する。</li> <li>・踏圧により固結している箇所を膨軟にすることを検討する。</li> </ul>
根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地際部は一部に巻き根が見られる。新しい不定根は乏しい。太根の多くは開口空洞が見られることから、その内部は空洞化または腐朽化していると推察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・踏圧により固結している箇所を膨軟にし、特に北側の不定根の誘導を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南側の上部は岩の縁を抱き込むように生育。</li> <li>・石、セメント片、萌芽根等を巻き込んで肥大し、奇形を呈する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹冠面積や樹体の割には根の広がりが乏しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根系の発達を促すため、土壌改良を検討する。</li> </ul>
幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部の空洞化が著しいが、生育に影響は無いと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空洞内部に若干の不定根が見られるが、空洞壁の内部に伸びている。壁を伝って地表に達する不定根は認められない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空洞内を膨軟な土壌で埋め、不定根の誘導を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空洞内部は硬く、乾燥しており、腐朽の進行は極めて緩慢と推察される。</li> <li>・シロアリの生活痕が見られるが、生息は確認できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に腐朽の進行、シロアリの発生の有無について観察、対処の実施を検討する。</li> </ul>
枝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北面高さ 4m の大枝基部は切断され、切断痕は瘤状となり、中は空洞となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空洞内部や枝基部にガジュマル、アコウが着生しやすいので、定期的な観察、及び除去を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 本の大枝はワイヤー支柱が設置されている。南西側に緩みをもたせており、民家側への倒伏に配慮したものと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻き込み途中の大枝の切断痕にシダ、オオタニワタリ、ホウビカンジュ、ホシダの着生が見られる。着生植物は内部腐朽を誘発する可能性が考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着生植物の除去を検討する。</li> </ul>
葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉色は健全だが葉量はやや乏しい。特に西～北西側の大枝のから出る小枝は枯死が多く、葉量も乏しい。強風の影響と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険防止のため、除去を検討する。</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉色は健全だが葉量はやや乏しい。特に西～北西側の大枝のから出る小枝は枯死が多く、葉量も乏しい。</li> </ul>	



